

B) 場所を限定して局所的な防除を進める種類

トクサバモクマオウ

モクマオウ科 *Casuarina equisetifolia*

別名：トキワギョリュウ

原産地： オーストラリア

生態系被害防止外来種リスト： 重点対策外来種

特徴

高さ 20m ほどに達する常緑高木。幹は直径 30～60cm になる。海岸の浸食防止、防風林、緑化樹として植えられることが多かった。

葉 : 葉のように見えるのは小枝で、若い小枝はトクサの様に節がある。

花 : 雌雄同株。枝先に薄紅色の雄花をつけ、雌花は枝の根元から出る柄の先につき、金平糖の様な形をしている。

繁殖 : 種子の生産量・発芽率が高い上に、菌と共生しやせ地でもよく育つ。

影響 : 成長が早く、種子繁殖が旺盛なことから、在来種と競合・駆逐し、本種の純林を形成する。耐塩性があるうえ、砂地でも生育するほか、窒素固定能力があり砂浜を森林化してしまうなどの影響がある。

侵入状況 : 奄美大島全島的に海岸部を中心に植えられている。

対策状況 : 笠利町での駆除実績はあるが、継続的な対策は実施できていない。

防除のコツ : 大きくなると駆除が困難になるため、できる限り幼株のうちに駆除を実施したい。抜き取りが困難な株はノコギリ、チェーンソー等で伐採を行う。